

第三章 村社柳森神社創始

村社柳森神社は愛媛縣周桑郡壬生川町大字明理川字天皇七十九番地にあり其祭神は左の通り

一村社 柳森神社 舊號 牛頭天官

祭神

素盞 男尊
稻田 姫命

一無格社 天滿宮 舊號 明理天滿宮

祭神 菅原道實神靈

明理川天滿宮として特別の古書を見すこ雖も壬生川綱敷天滿宮の由緒に依れば左の通りにして明理川天滿宮は其後ならんこ推想するも創始明ならず菅公筑紫に左遷されたるは延喜元年酉年にして大正十五年まで壹千廿五年なり

由緒

伊豫國桑村郡壬生川字天字木旧社地に一字の小祠あり勸請年月日不詳往昔菅公筑紫に左遷し玉ふ時當國火燧灘にて暴風に遇ひ玉ふ時

風こそは波のはらをは賞てさせれ

とがなき舟のうたるべきとは

かく詠じ給へは風雨漸く鎮まり又天幸を得玉い御舟を平砂に漕き寄せ玉ふ。今に字して御舟丁と云へり。天神木邊に大石あり此上に御冠を置き玉ひ、傍に綱を曲て暫時此上に座し玉ふ故に綱敷天滿宮と稱す、方今井戸の上の現社地より十丁餘北方新川と北前と云ふ人家との間にあり、今に天神の木と字し古松あり、又梅グロと塚の丁と云ふもあり。右大石は今水田に埋れり、當社往後は神詠風こそはの三十一字を神靈と奉崇れとも、今存せず當今は中興作の御木像を安置奉りき。